

しでがの通信
 第64号
 羽津小 P・T・A
 編集発行
 発行所 羽津小学校

体力作りについて

教頭 小塚 久美雄

子供の体力	1
各部の活動	5
松の緑を護る	7
主婦の見たアメリカの家庭教育	8
陳情に同行して思う	11
常任委員会だより	12

その実効をあげるべくご協力願いたいものだと考えます。



体力づくり

文化部 T・S

近ごろは、ママさんバレー、ソフト、壮年ソフト、野球またスポーツ少年団の活動と、体力づくりを目ざした活動が大へん活発になってきています。しかし本校において子どもたちを見ていると、集会が長びくと気分が悪くなる。鉄棒で逆上りのできない子が多い。遠足で少し長い距離を歩くと「えらい」「えらい」とえらがる。学習や作業にあきやすく、ひきしまった動作が少ない。こんなことに気がつきます。このようなことから学校としても体力づくりについて考えているのですが、体力づくりは教育の総合されたものとして大切なことであると思います。

現代の教育は、「知」「徳」・「体」の調和のとれた人間性ゆたかな児童の育成をめざしているのですが、小学校ではその中のひとつを考え他をかえりみないものであってはならないと思います。しかし豊かな人間性はいきいきとした体力づくりに伴って培われ調和のとれた子どもをはぐくむのであると考えます。したがって学校における体育指導は体育の時間とはもとより、学校生活全体を通して適切に行われなくてはならないと思います。

しかし体力づくりの実をあげるためには学校体育のみに依存するのではなく家庭においても

- ・学校で学習した内容を生活に取り入れる。
- ・体力づくりへ自分の目標をもつ。
- ・家族全員が何らかのものを実践する。

等、学校と地域が一体となって、運動会も過ぎ、秋も早終わろうとしている。年々盛んになりつつある「体力づくり」我が家にも突如として小さな体力づくりが行なわれたのである。それは私が客用のマットレスを新調した日の事である。夕食時は買入れたマットレスの事が話題になった。すると突然主人が「子供達のマットレスを一度やめてみるか。」と言い、子供達にも話しかけた。というのは、私の家には六年生の男の子と、一年生の女の子がいます。この六年生の子であるが最近になってなんとなく姿勢が悪くなって来たのが

少し気になって来たのである。長い間マットレスを使っていたが、一度マットレスを取ってみてはどうだろうかと言うのである。その夜、子供達は布団に入っていたが、主人が風呂から出ると「さあ、今日から皆マットレスを取って寝よう姿勢もよくなるぞ」、と言って敷いてあるマットレスを取りにかかった。妹の方も一語になってマットレスについてくように「そんないやや」。子供達が反対するのも聞かず、主人は家族皆のマットレスを取ってしまった。そして翌朝、目が覚めると体がとても気持ちがいいのに気が付いた。主人も笑いながら「体がシャランとしてええ気持ちやなあ」と言った。それから我が家はマットレスなしの生活が始まったのだ。あれから約一ヶ月、主人も子供もマットレスを取ったからといって体が痛いとかマットレスしてよ、なんて一度も言わないから不思議だ。薄っぺらくなった布団に寝ている子供達を見ていると、少し可愛想な気がするが、これで姿勢が良くなるのならいつ迄も続けて行きたいと思えます。

子供の体力

藤井 泰

大学受験戦争のきびしさは、年

々エスカレートしています。私の知り合いの教師に聞いた話ですが、大学受験戦争に勝つ生徒は、最後には体力のある生徒です。それは最後の追い込み時には、睡眠が不足がちになるが、体がもちこたえられる体力が必要だということだ。多くの皆さんの御理解により、本年よりスポーツ少年団サッカー部ができました。保護者会の一人として微力ながらお世話をさせて戴いて半年がすぎました。サッカーを全然知らなかった子供達が、荒木監督、佐藤コーチの熱心な指導で、大変進歩したようです。スポーツをする目的には、勝つことをはじめ色々ありますが、サッカー部は人間育成と体力増強にも力を注いでいます。団体競技からめぐる礼儀ある人間育成は、子供達に後々で大変プラスになると信じて、一面きびしく指導しています。又サッカーは走ることが多いスポーツですから体力増強は、知らず知らずのうちにもその目的を達成しています。この子供達が大きくなって、前記のような受験戦争にまきこまれても、サッカーで培った体力が必ずプラスになると信じています。

子供の体力

青木 光枝

に成長してほしいと願っています。最近の子供は体力がないと、世論で騒いでおりますが、その原因の一つに、過保護にあるように思われます。転ばぬ先の杖の諺を病気に当てはめて、病気になる前に薬を飲ませたり、金太郎腹巻を覗いたり、夜、何遍も子供部屋を覗いたり、母親の愛情を一杯に注がれた子供は、果して丈夫な、体力のある健康児に育つでしょうか。もう一度ふり返ってみましょう。

スポーツと体力

文化部長 服部 一二

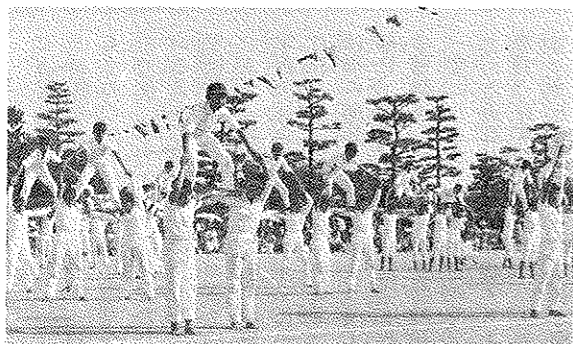
貧乏人の子沢山程、良く育つのだとえの通り、我家では、はじめだけははつきりさせ、あとはあまり手をかけないようにしておきます。例えば、暗くなって帰宅しますと、鍵がかかっている中へはいれない。二人の娘は空腹と、寒さで抱きあって堪えるのです。三時間間も。体でわかるから、次から決して遅くなる事はありません。そんな事にも堪えられるのも、体力作りをしているからだと思えます。小一から、スイミングクラブに入り、良き指導者のもとで、良き精神と肉体を培いました。長男も(中三)小学校では勉強は留守で水泳に力を注いでおりましたが、

中学になって、耐久力が出来、親も時として、頼もしく感じる時があります。

我家では、病氣から見離されてビールも寄りつきませんが、体力作りは短期間では期待出来ません。毎日の積み重ねと根気、そしてそれが、学力にも通ずると信じます。

明日からでは遅すぎます。早速今日から、なわとびから挑戦してみましょ。

それが、これからの受験戦争を切りぬける鍵なのです。



るために必要な肉體訓練であることと忘れてはなりません。スポーツはさらに主導性・積極性・勇敢さ・不屈さ・忍耐強さ・行動の敏しさを育てるうえでもっとも重要な役割を持っていると思えます。又スポーツは友情を育て、集団生活を育て意志を強固にします。ある家庭で校内体育だけで充分だと言われた方がありました。これには私も驚かされました。現在の羽津小学校の児童教と運動場でこの言葉が出るとは……私の長男は幼児の頃から貧血症で週に一回は病院に行きました。小学校四年生ぐらい迄は食事のせいかと種々献立をかえていたよう

子供の体力

子供の健康意識から

安藤 勤

「腕白でもいい、たくましく育て欲しい」。これはハムのCMであるが、わが子の健康を願わぬ親はいないであろう。

ところで、そう願われる側の子供たちは一体、健康ということをどのように考えているのだろうか。最近、東京で行われたある調査(小学五・六年)によると、「なりたいもの」という設問に対して、男女双方ともに「健康な人間」という項目を支持した。(その他、男では「根性のある」、女では「素直で正直」「やさしい」など)

では、「健康な人間とは？」ということになるが、その前に「どのような状態の時に不健康であると思うか」という設問に対する回答を見ておこう。

風邪をひきやすい、寝不足、耳が遠いみたい、頭がぼやっとして、心臓・胃が弱い、体がだるい、すぐに疲れる、あまり食欲がない……ETC.である。これらは全て、なんとほなしの不健康感である。むかしに比べて、結核、皮膚病、寄生虫卵、栄養失調等が追放され、鼻汁を垂らす子は見かけなくなり、みるからに小ざっぱりと健康そうに見える最近の子どもたちを把えている新たな「病」は、なんとなく「だるい」「ぼやっ」「なまる」といった心理的な形で表わされる鈍重な不健康感だと言ったことができそう。

大人の側に、病氣さえ、ケガさえしなければ子供は健康なのだ、と思いきや、子供は「病」は決して見えてこないだろう。「たくましく、云々」と口では言

いながらも、「安全」「衛生」という名をかりて子供たちの内部にある「野性」を抑制しつづけてきた結果が、上述のような子供たちの健康意識に投影されているのだと考えるべきであろう。このような大人の健康管理システムにがっしりと組み込まれた子

供たちの体力づくりは、どのように行われているのか。ここでも積極的な健康策よりも「体に悪い」とはしない」という消極的な姿勢が色濃く、という傾向が見られる。更に、少数派ながら、積極的に体力強化策を実行している子供たちの実態を見ても、個人トレーニングとかスポーツクラブ的なものに要約されそうである。

以上のことから分るように、子供の健康意識には現代社会(大人の健康観が直接反映している)である。そこで、こうした子供たちの実態を正確に把握し、そこへの反省を加えた上で、将来ある子供たちの健康を維持し、真にたくましい人間を育てていくことが今後の大きな課題であると考えられる。

参考資料

子ども調査研究所刊

「子どもの健康意識」

(『ヤング&子ども通信』58号)

子供の体力

浜野 久子

最近の子供達は、一口に言っても体力がない。学校の授業が終れば家へ帰り、恵まれた自然が周囲に沢山あるにもかかわらず、家中

にとどこもテレビを見る。テレビは子供達にとって大変魅力のあるものですが、悪影響が子供の知能・学力・体力面に現われているように思います。又、昨今の学校教育にも問題があるように思います。我々の子供の頃の教育は、学校と社会教育は一本化していたけれども、現在は全く別になって、体得の部分が何もないようです。毎日、勉強、勉強で、帰宅すれば学習塾通いで過ぎ去り運動不足、一度に汗をかくより毎日のちょっとした運動が体力に影響するようです。日常の生活の中の体力もちょっととした心使いからだと思います。

最近、各地で体力作りを通して、良い家庭を作ろうと親子の体力作りがさかんようです。是非、家庭の中でも取り組みたいものです。勉強も大事ですが、「健康第一」子供の体力作りが大いに協力したい次第です。

子供の体力
―行動体力の面より―

倉田喜美子

ここ十年間、体力作りということがクローズアップされてきている。この背景には、身体的にはかなり発育してきているが、体力がこれに伴っていないということが

	30m走 (秒)	連続ボールあて (回)	とび越しくぐり (秒)
男	6.8 (6.5)	11.2 (11.8)	14.8 (13.5)
女	7.4 (6.8)	11.0 (10.4)	16.5 (14.5)
()内は全国平均			

体力があるとはいえない子供の姿が浮き彫りにされているように思われる。(私の学級児童だけでも) 体力を高めるために様々な工夫を

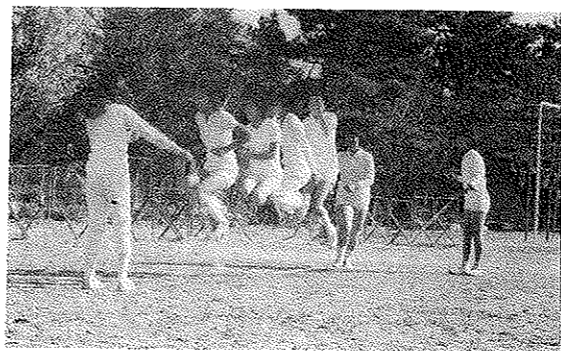
ある。これは、合理主義社会や過保護等に起因している。「体力を作る」ということを考えてはいけない。休息も体力の増強になる。という言葉があるが、何か今は、休息が多すぎるといった感がある。次の表は、私の学級児童のスポーツテストの結果と全国平均を比較したものである。表から、女の連続ボールあてを除くすべてのものは平均より下まわっていること(平均以上であっても) 体力があるとはいいきれないが、) として、調整力(特に持久性や敏捷性)が著しく劣っていることがわかる。

自らつくり出す
体力づくり

養護教諭 伊藤光子

病気をしない丈夫な子供。こどもは風の子、病気に対する抵抗力を養い、いろいろな刺激に対する反応、すなわち、適応力を調整するには、どうしたらよいか、健康は自ら創るものです。風の子鍛練はよい方法だと思います。最近、子供は風の子の觀念が誤解されて室内に入ると、すぐ裸のままの生活をさせる姿をよく見ますがこれは行きすぎではないかと思えます。

風の子の教育は、ときどき裸にするその変化によって、皮膚の鍛練を期待するのであって、始終寒さに震わせおののかせることは勿論健康のためによくないのであり寒さ暑さの変化が刺激になるのであって、この変動に堪えることが



自律神経系の訓練になり鍛練になる。そうして自律神経系の安定を強める。風の子の鍛練によって、皮膚の適応性を高めることが肝要で、ぬくぬくと着せ大事にすることは、子供を弱くするだけです。私達は、ともすると冬の寒さを恐れますが、夏の暑さ負けには、案外頓着しないのではないかと思います。子供を鍛えるには、個人差、性、年齢、体質差を考慮する必要があります。年を加えるに従って鍛練の分量を増してゆく、冷水摩擦や、夏の海水浴は、小学三年以上、早くても満四才以上といわれます。

又刺激反応を示す子、案外平気な子、反応しやすい過敏性体質の子を鍛練するには、漸進的に慣らしてゆくことが肝要です。

風の子の鍛練は寒さ暑さに鍛え生物学的練成のほかに、精神的訓練の効果も期待し、困難や、欠乏に堪える忍耐力を養う意図もあるのです。

子供に対し、何んでも与え、甘える子にしておいては、身心の弱い子になってしまう。次に子供の遊びについて考え、子供の遊びには、夢と、冒険がある。

これからの子供は、唯単に多くの知識を身につけさせるだけでなく、いろいろの遊びをとおして運動に関心を示すよう、積極的に、日常生活の中に取り入れてゆくことが大切だと思います。

泥んこになって夢中に遊べる子供、小さくとも、やせていても元気一杯遊べる子供、そうした中に冒険心が湧いて、自らわんぱくさに立ち向って行く姿こそ、健全な体力をつくり出す。

子供達の遊びはいのちであり、教育的にもこの上なく価値あるものと、私は思っています。



各部の活動

バザー開催を顧みて

福祉保健部長

森 源 八

本年度のPTA事業計画の中でも最大の事業でありますバザーの開催にあたり、役員の皆様始め、部員の方々には格別のご協力を賜り、誠に苦勞さまでご座居しました。

開催準備には相当事前から計画いたし、例年地域の有力なる会社、商店関係への依頼をはじめ、特に会長並に校長先生には、出品商社への依頼と謝礼に再度にわたり全城まわっていただき、その成果たるや、講堂に並べられた沢山の品物で皆様にもすでおわりの事と、深謝いたすものであります。開催当日はあいにくの雨天にもかかわらず、会員の皆様には多数のご来場を賜り、誠にありがとうございました。

会場設営ならびに商品陳列に値段つけ等、行き届かない点、多々ありましたが、PTA事業として行われました事ですので、その点は何とぞご容赦願いますようお願い致します。そもそもPTAバザーの目的で



ある会員の皆様からの貴重な出品物、たとえば手芸品とか趣味の作品などを展示即売すると云ったやり方から発足したのであるうかと存じますが、最近のバザーでは地域の会社・商店関係のご協力に、大半が依存して居る傾向になってきている事も事実です。しかし学校としても毎年このバ

陶芸教室

大宮東 今村 悦子

陶芸教室についての投稿依頼を受けましたが、陶芸教室一年生の私には、何を書いてよいのか分からず、お断わりしようかと悩みましたが思いきって筆をとらせていただきました。

万古の町四日市に生れ育っても焼物には全く縁がないものと思っていました。ところが、昨年、長男が入学して、初めての夏休みに、陶芸教室がある事を知りました。

学生時代は図画工作はまったく苦手でしたのでせめて今からでもと思い、教室に出席する様になり今年で二回目です。四く五十人の人達にまじって初めて土を手にした時の感触は忘れ

る事ができません。なんと冷たくて、滑らかな土、その冷たい土も、作品が出来上がるころにはなんと熱ったかく感じた事でしょう。

自分なりに、作品を仕上げた時の満足感、家庭の事も忘れてほんとうに楽しい一日でした。

学校から焼上げましたとお便りに、ちよっぴり心配顔、でも作品の並ぶ前に立ってその出来映えに思わず、にっこり、我が目をうたがうとはこの事です。

家庭での作品評価は、まず、主人、「ううん、なかなかいい線を描いている」。

早くそれにご馳走のせて食べたいよ」。

私、自己満足、陶芸教室に行つて、何か心がゆたかになった思いです。

生花教室

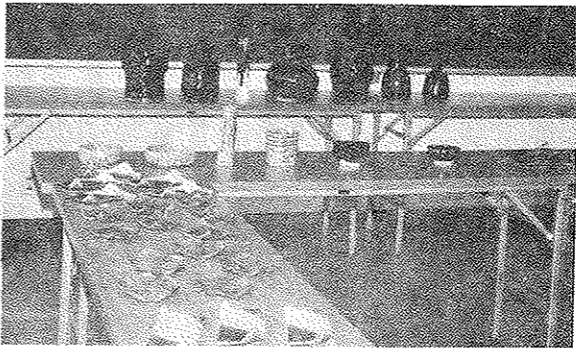
母親部 海住 明美

母親部の行事の中に今年、生花教室が加わり、六月より池の坊流のお花の先生に、毎月第二、第四火曜日の午後二時から四時までの時間を頂き、会議室にて常時二十名位の方が参加して生け方は勿論の事、色々と花の種類、名前などを雑談を交え乍ら教えてもらい今日に至っています。

十月までは、重い花器を各自、持参してもらっていましたが、十一月からは母親部で講習時の花器は用意しました。

お花を習い始めて私自身、三年程になります、自己流が直らず、先生の手直しに頼りきっている次第です。でも時には、奇抜で流儀を無視した生け方をして、自分だけで満足している事もあります。

三人の子供が小さな時は、気持ちに余裕がなかったのと同時に、お花をいたずらされたりするので余りなじみがなかった。しかし今は主人に花屋さんを開くのかと笑われる位、所かまわず、生け花から



食品工場の見学を終えて

藤井 久子

日頃は、PTA母親部活動の為に、大変な御理解と御協力を頂きありがとうございます。

食品工場見学は、去る九月十四日、無事終了しました。

校長先生、森先生、PTA本部役員を含めて私達五十三名は、早朝、本校をバスで出発しました。

まず、豊明市のフジパン豊明工場を見学しました。この工場は、衛生面に厳しい工場で、私達全員は、帽子をかぶり、履物を変えて、おいしい匂いの中を次々と、各工程を見学し、おみやげにパンを頂きました。パンを作る工場としては、私達の予想より大変大きな立派な工場でした。お昼は、豊川稲荷で



観葉植物まで、部屋のあちこちに置いてある。生け花と鉢物とはそれぞれ違った良さがある。鉢物は「育てる楽しみ」。生け花は「創る楽しみ」。生け花は、生ける人の性格により同じ花を生けても全然違うものが出来る。大胆に生ける人、こじんまりと生ける人など、個性のある花が、色々と楽しめる。

これからの季節は花もうんと長持ちをしますし、お正月を控えてもっとたくさんの方に生花教室に参加して頂ければと思います。

ここでは、醤油のおみやげを頂きました。イチビキ豊橋工場を後にして、途中、豊川市御油町にある、天然記念物の御油の松並木を、バスガイドの説明を聞きながら、遠くより眺めて、バスは、四日市の方へ向いました。

バスの中では、皆さんが大変な張切り様で、友人はだしの歌声の切れる間が、ありませんでした。この見学会は、会員の皆様方の知識の高揚と親睦を計った事からも大変有意義でした。

この見学会が、無事終る事が、出来ましたのも、先生、PTA本部役員及び御参加下さいました会員の皆様方の御理解と御協力が、あった為と思ひ、深く感謝しています。ありがとうございます。

工場見学

羽津第二 生原登志子

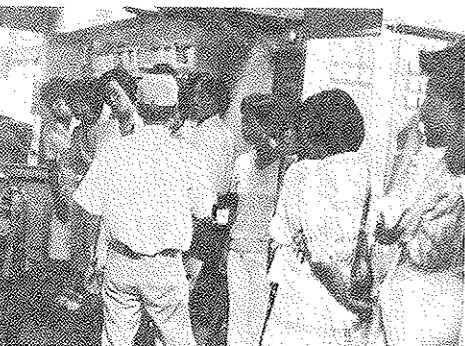
九月十四日、小雨模様の中、会員の皆様で満席になったバスは、一路フジパン工場へと出発致しました。

フジパン工場では、玄関で衛生管理の為、白い帽子を手渡され、それをかぶって見学です。

ドアを開けて中に入ると、おもしろいようなパンの匂いが、あたり一面に漂い、日頃店頭で見る多種多様なパンが、オートメーション化された機械で、次から次へと出来る様子は、目を見張るばかりです。

食いしん坊の私は、このホカホカのパンを口にしたという衝動かられました。

昼食は 豊川稲荷で精進料理を



頂き、主婦の立場から 法事の時に役立てたいと 脳裏に刻みこんで参りました。

イチビキ工場では、大きな容器と管を使っての作業工程ですので目の当たりに見たのは、醤油を絞っている所から、ビン詰、出荷に致るまででした。

車中或は沿道では、日頃 近寄りたかと思つております校長先生、会長さん、本部役員の方々と気軽に、又ユーモアも交えて身近に話し合い、車中では歌あり、クイズありで、大変楽しい和やかな内に見学旅行の一日を、終えさせて頂きました。

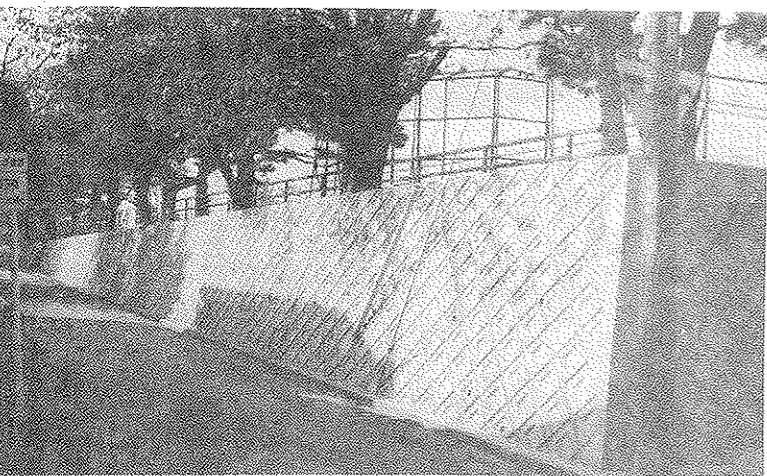
教々のPTAの行事を土曜として、会員相互の親睦を深め、これから一人でも多くの皆様が 参加されます事を願っています。

松の緑を護る

学校を象徴する松。この松の緑を護るため、創立百周年を記念して正門附近にブロック擁壁を施工し整備していただいたことは、周知のとおりであります。このたび、地区連合自治会をはじめ、地元関係各位の格別のご援助、ご協力によりまして、市費負担工事としてこれを拡充整備していただきました。関係各位のご尽力に厚くお礼申し上げます。

工事に際しては、「名木を枯らさないように」との配慮から、細心の注意を払って実施されましたが、幸い、美観を損ねることなく完成されたことを大へん嬉しく思います。

また、近年猛威をふるう松くい虫の害を防ぐため、専門的な立場から、薬剤散布をしていただくなど、松に寄せられる地区の皆さま方のご厚意に深く感謝いたしております。



松を護るブロック擁壁



湯川 千恵子

中京TVニュースキャスター

主婦の見た アメリカの家庭教育

アメリカは中勢部コロラド州ロッキー山脈の東側の標高一六〇〇メートル、富士山の四合目ぐらいの高原都市、人口は約五十万、日本で云うと仙台ぐらいの規模の町でアメリカのミシシッピ以西の大平原西部、文化、産業の中心地で、ニューヨークアメリカの東部から車で出発して、ミシシッピ川を越え大平原を西へ西へと約一週間行くと、はるかかなたに、ロッキー山脈がありその麓にある町、当時(万博の年)長女六年・四年・幼稚園・二才半言葉もかたことで苦勞を覚悟で心細い限りの一歩だったが、向こうの人達は、積極的に色々と親切にしてくれ、自分の家にある物で余って使えてる物鍋や釜、台所用品、衣料、電球それに「まだ古い物はないだろうか」と云って雑巾まで持ち寄って手伝ってくれ心をうたれたそうです。三日目から子供さんを小学校へ入学させ、校長先生始めクラスの先生、クラスメートの方々が暖かく親切に迎えてくれ言葉の不自由をのりこえ思ったより向こうの



講師 湯川氏

生活に早くとけ込み、子供さんの友達、御主人の大学の関係の方々、まわりの人達と家族ぐるみの肌をふれ合わせた交際のなかで、特に子供の教育に関して、いかに両親が家庭で親身になって教育しているか、生の姿に感銘を受けて「何とか皆んなに伝えたいという気持ちから」三年かゝって本を書かれたとか、その縁ですばらしい講演を時間の過ぎるのも忘れて、皆さんと共に聞き入っていました。家庭教育の中には、その国の政治・経済あらゆるものが、素朴な形で表わされている。生き方が積極的で、教育の責任は家庭であるという考え方、遠足も家族ぐるみで行き、両親と一体となって自然観察をし、勉強するなど又、余暇の過ごし方で、土曜日は、家族揃って、自分の家の整理、手をよごして草を刈り、掃除を済ませ、その週知り合った、家族を招いたり、招かれたりして、ホームパーティーをする。奥さんの手料理で家族一緒に夕食を共にするのが、最高のもてなしである。パーティの主役は話。いろんな事を話し合い、互いに理解する。又、楽しみの場であり、情報交換の場であり、自分達の生き方、考え方を話題にし、自分なりのものを身につけて行く、学習の場でもある。

主婦の人達は、お互い社会性をうまく生かすすぐれている。それも小さい時からうまく生かし、生活の中で共通点を見て、お互い話題を出し合う。日本とちがって、学力だけではどうにもならない。通用しない世の中なので、自分で何でも作り上げ修理して使う。皆一人一人責任を持って勤勉に良く働く。日曜日は家族ぐるみで、教会に行き、人間としてのあり方、身近に起っているニュースなどで、どうしなければならぬか、牧師さんより、説明を受け、又意見の情報交換の場でもあるし、親睦も計っている。人のために何かをしてあげられる子、人の立場に立って考えられる子、自分の考えを持ってのべる子、責任を持って物事をやる。人間は一人一人皆ががうと云う事で、その子に合った教育をする。その子のいい所を見つけ出してほめてのびせやる。先生の話を聞き、あらためて、物のなかつた時代を振り返り反省する時ではないかと思う。一人でも多くの皆さんが、講演を聞き、お互いの集りを持って話し合える場があったら素晴らしい事でしょう。子供を育てる上に集りと呼びかけたいと思います。

文責 文化部

講演を聞いて

小川 進吾

講演「主婦のアメリカ体験」は日本とアメリカの文化の相違と興味深く拝聴しました。

戦後、日本はアメリカを手本とした民主主義の教育と建設がなされて来ましたが、その本場の生活体験を経て日本に戻ってみると、あんなに生き生きとして素晴らしかった生活が、日本の生活とは重なり合わず、褪せたものになってゆく感じに、一体アメリカでの体験は何であつたかとの思いが湯川先生の出発点の様に思われます。

内容は、各家庭が社会に開かれている様子、教会と日曜学校、地域社会への積極的な参加などありましたが、その中で、日本の躰は人に迷惑を掛けないということだが、アメリカでは人の為になる人間の躰であるとの話がありました。些かこじつけになりますが、日本では 人に迷惑を掛けない↓消極的↓控え目↓謙譲、人の為になる↓積極的↓しゃべり↓思いやり、と連らなり、思考即ち文化の相違が躰の面にも出て来るのではないのでしょうか、文化の継承は出来難いものだと思います。先日子供と話をしていたら「そんな古い話今の時代に合わん」と

内容の理解をせず否定したことがありましたが、終戦以来三十数年、未だに古い話というだけで拒絶する社会現象を見た思いがしました。どうも今のギスギスした社会は古いものを切り捨て過ぎ、その分がまだ埋められていないのが原因ではないでしょうか。

講演を聞いて

大宮西町 藤井美江子

湯川千恵子先生が、ご主人のアメリカ出張に同伴されて、一年間アメリカで生活されて、主婦としての体験、経験された話を、拝聴したわけですが、家庭生活は、ま

ず土・日曜日の余暇の過ごし方。土曜日には、家族全員が家庭の整備をし、子供にも仕事の分担があり、親の仕事も手伝わせる。そして、家族ぐるみの交際で、招いたり招かれたりし、お互いを深く理解し、情報交換、生き方、考え方、又自分とは違った異質な人とのふれ合いなどで、切磋琢磨し、自己を向上せしめる。

日曜日には、教会へ家族で行くという積極的余暇であるが、日本はまだ消極的余暇である。そして、日本のように学歴だけでは通用せず、自己の価値観、考えをはっきり言えなければだめである。そして子供は、親の仕事



手伝って覚え、又家族ぐるみの交際等で、小さい頃頃から、社会的経験を積み重ねて行く。人に迷惑を掛けない、人のために何か出来る子、奉仕の精神を教える。その他色々有益な話を伺う事が出来ました。さて、身近な所で、我が家にも三人の子供がおりますが、家庭教育はといいますと、このまま大きくなって行けばいいわけです。人に迷惑を掛けない事は、良いとして、人の為に何か出来る、奉仕の精神はというと、例えば、道を聞かれたら教えてあげるといいう小さな親切はしていますが、これからでしょう。

学習参観雑感

大宮西 奥岡 辰男

一年ぶりの学習参観。曇天にもかかわらず、多くの方々の参観に会いました。

私の所は、四年と一年の兄弟の為、平等に半々に観る事になりました。

兄の方は私に似て、内気で、少々積極性に欠ける様に感じ、あれで学級代表が努まるだろうかと、心配になりました。弟の方はドッチボールの時間。子供達の目は、イキイキと輝き体は軽やかに、今日この時間がとても楽しくてならない、という感じでした。お父さん方も、童心に返って、楽しく有意義な一刻を過ごされた事と思います。私の子も、国語、算数となると青菜に塩なの如く、積極すぎてハラハラさせられてしまいました。

我が家では、教育は全面的に母親まかせですが、実際に参観させて頂き、これからは、父親である私も、少しは協力しなければいけないと、痛感した次第です。



学習参観雑感

八田 後藤 桂子

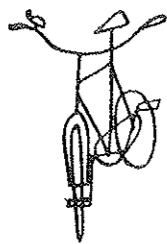
私共には、二年、三年、五年の子供が在学させていた...

三四地区小中学校児童生徒の補導に関する申し合わせ事項

- 一、服装 外出する際は、学校指定の服装を守る...
二、映画 三四地区視聴覚教育連盟推薦並びに承認以外は責任者が必ず同伴のこと...
三、催し物 入場は必ず責任者が同伴のこと...
四、飲食店 入場は必ず責任者が同伴のこと...
五、ゲームセンター(コーナー) 入場は必ず責任者が同伴のこと...
六、水泳 三四地区内の河川及び海岸や湖沼、池、溜りでの遊泳は、全面禁止とする...
七、ローリースケート場 緑地公園内のスケート場並びに特別に許される公認の場所以外は全面禁止とする...
八、アイススケート場 入場は、責任者が必ず同伴すること...
九、ボーリング場とゴルフ練習場 入場は、責任者が同伴のこと...
十、遊びについて 年末年始、祭礼、盆おどり等に限り、夜遊びは原則として、午後十時までとする...
十一、羽津中学校建設に、関連する体育館の建設、及び、プールの建設について
十二、地区内に、小学校を一枚増設願いたいこと
十三、羽津小学校の簡易プールを本格的なプールに改築願いたいこと
以上三点は、去る十一月四日、出張所長さんと、羽津地区自治会三役の方と、地区選出市議会議員さん三名、山手中学校と羽津小学校、会長と校長先生にて、加藤四日市市長さんに、学校建設に關して、お願いした陳情書の項目です。
席上、自治会の役員さんをはじめ、地元選出の議員さんも、各項目に關し、いろいろすくい質問や要望を述べていただきました。
一については、五十四年度中に体育館を、そして夏までに、プールを建設願いたい事。
二については、五十四年度に、用地買収にかかり、五十六年度

新道路交通法(抜粋)

昭和53年12月1日施行



一、自転車横断帯の新設
自転車は、「自転車横断帯」のあるところでは、その「自転車横断帯」を通行しなければなりません。

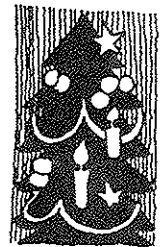
- 二、普通自転車は、標識などにより通行することができることとされているところは、歩道を通行することができず、その場合、歩道の中央から車道寄りの部分を徐行し歩行者の通行を妨げそうなきは、必ず一時停止しなければなりません。
三、普通自転車とは、二輪又は三輪の自転車、他の車をけん引していないものをいいます。
罰則 一、一万円以下の罰金
二、交差点での通行方法
普通自転車は、交差点や、その手前に「進入禁止」の標示があるときは、その標示の直前で停止し、自転車を降りて歩道を通行しなければなりません。
四、自転車の制動装置、反射器など。
自転車には、制動装置(ブレーキ)と尾灯または反射器材を備えなければなりません。ブレーキの不良な自転車を運転すると処罰されます。
制動装置 三万円以下の罰金

陳情に同行して思う

開校を目標に願いたい事。
三については、プールと体育館を、併せてお願いしたい等です。
羽津地区自治会の、役員さんには、いつも何かと本校児童の為に、お世話になって居ります。余談になりますが、スポーツ少年団が、体育振興会と、青少年協、PTAの三者と、自治会の役員さん、交通少年団が、四日市北交通安全協会羽津支部の役員さんを中心に、青少年協、PTAの三者と、自治会の役員さん、地区ぐるみの人達に、本校の児童が守られ、お世話になり、御協力、御指導をいただいで居ります。
なお今春より、剣道少年団が、別名町の伊藤光博さんに、サッカー少年団は、八田町の荒木豊さんと、佐藤宏樹さんにお世話いただき、発足早々より、好成绩をあげている事を、併せて御報告申し上げます。

木村宗一氏の 逝去を悼む

常任委員会だより



です
く
さい
ど

昭和四十五年、PTAの協力により、焼成窯が設置されて以来、PTAの焼物教室のため色々工夫され、土味に変化をつけるため、暑い中を採土に行かれたり、実技のみならず、抹茶茶腕について種々講義をされたり、釉薬のかけ方、窯の温度の上げ方などを、実際に手どり足どりご指導していただきました。

又、陶芸教室の打ち合わせのため、自宅におじゃました折には、抹茶茶腕や釉薬の話など、有意義なお話をお聞きしたのも、懐しい思い出となっております。

五十一年の陶芸教室以来、遂にお元氣な姿に接することもなく、長年の闘病生活の甲斐もなく、本年八月、この世を去られ、悲しみにあたえません。

思えば、PTAの陶芸教室には一方ならぬご尽力を賜わり、PTAとしても借しい方を失い、誠に残念なことであります。

ここに、PTA・学校関係者一同深く哀悼の意を表するとともに故木村宗一氏の、ご冥福をお祈り致します。

六月常任委員会

一、 会長挨拶

二、 経過報告

三、 議事

・ 専門部活動計画と部員の一部変更について

・ 六月の行事について

・ その他

十月常任委員会

一、 会長挨拶

二、 議事

・ 母親部より工場見学の事後報告

・ その他の報告事項

・ バザーの日程の打合せ

・ その他

七月常任委員会

一、 会長挨拶

二、 経過報告

三、 議事

・ 当面の行事計画について

・ 夏期休業中のプール監視について

・ その他

九月常任委員会

一、 会長挨拶

二、 経過報告

・ 夏休み中の環境整備作業の件の件

・ スポーツ少年団県大会出場

・ 市P関係

三、 議事

・ 九月行事の打合せと確認

(母親部) 食品工場見学

・ 生け花教室

・ 九月の学校行事報告

十一月常任委員会

一、 会長挨拶

二、 学校長挨拶

三、 協議・報告事項

・ バザーの会計報告並に収益金の使途について

・ 十一月部活動計画とその確認

・ 十一月の学校行事報告

・ 市P関係

・ その他

。庭の木々もいつのまにか、冬装束に様を変えてしまい、たくさんの行事と共に二学期を終えようとしています。

。楽しかった行事の上に、子供の成長を見つけ喜び、一方では、日々の新聞で「自我の芽ばえる難しい時期云々」と始まるいくつかの、大胆で幼い行動と出会い、驚き不安も感じました。

。子供に夜長のこの季節、本と親しみ、人生の楽しさ、我慢を身につけ、根をはった大木をめざしてほしいと願います。

。冬は、暖を求めて、家族が集まることが多いようです。家族の断絶が、社会問題化されつつある今、一家そろって、多様な対話が楽しめるチャンスだと思えます。

。不況の中で、あわただしく年の瀬を迎えようとしております。来る年のよき事を信じ、身心を刷新しましょう。